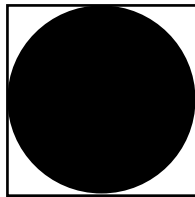


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 154

2018. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

The European regional InSEA Congress Interventions2018に参加して

理事 結城孝雄

2018年6月18-21日にかけて、フィンランド ヘルシンキ郊外Aalto大学Espoo's OtaniemiキャンパスのSchool of Arts, Design and Architecture にて、InSEAヨーロッパ会議が開催されました。大会の概要については、本誌p.6の佐藤真帆さんからの報告に委ねることにして、主観的な感想を述べてみたいと思います。

国際学会の発表で思うことは、発表内容よりコミュニケーションの問題、やはり質疑応答が一番のハードルであることを再認識しました。聴衆は、早朝から非常に熱心で発表者の内容に共感的態度で内容の本質を更に掘り下げるような質問を行います。その根底には美術教育を通した人間形成を実践研究する同志という連帯が感じられます。

European regional InSEAには、ENViL (“European Literacy for Visual Literacy”) という組織の存在があります。

ENViLは、カリキュラム開発を担当する研究所、教員養成大学を担当する研究者からなる研究グループです。2010年に設立された非公式ネットワークで欧州10カ国から50人以上のメンバーが参加しています。今日的な21世紀型教育学の科学的視点から援用したアプローチによる教育実践の枠組みを提案する専門組織です。科学ベースのカリキュラムの開発における経験の共有と交換から、共通視覚リテラシーに関する共通の欧州フレームワーク (CEFR_VL) と呼ばれる共同プロジェクトが実施されています。このように欧州では、科学的に有効な学習環境の要素を共有して、地域の特性を生かした教育実践の創造に向けて実践研究が進んでいるということになるでしょう。

このAalto大学にも、ENViLの成果は不明としても、先端的な教育学の知見が随所に生かされています。その一つが教育の中心である学生に向けた学習活動の目的、成果の可視化、モチベーションの喚起、サポートの充実、キッチンや備え付けのリビングのような教室の学習環境。前回訪問の際に広報担当のMartti Raevaara教授からレクチャされた中で、OECDの学習観からの大きな影響と斬新な取り組みが効果を発揮しているそうです。教育の部分的改革でない根底からの変革がアートをInterventions (介入) して、発生している最前線がAalto大学でした。

来年開催のThe InSEA World Congress at UBC in Vancouver 2019の大会関係者とも懇談して、日本からの参加要請も受けました。関係者に日系の方もおられるので、皆さん安心してご参加ください。世界的にアジア芸術の関心 (素材と方法) が高まり、アジアでの研究発表も昨年の韓国、今年の香港で開催されています。日本での研究発表の可能性も模索する時期に来たようです。

第52回 日本美術教育研究発表会2018 案内

1. 日時 平成30年10月14日 (日) 9時～17時30分 (予定)
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 16号館
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)
4. 後援 文部科学省 (申請中)

研究局より

第52回日本美術教育研究発表会2018（最終案内）

□主催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-Japan）

□後援：文部科学省

□開催日：平成30年10月14日（日曜日）

9時30分から16時45分（予定）

懇親会：16時45分から19時（予定）

□会場：東京家政大学板橋キャンパス

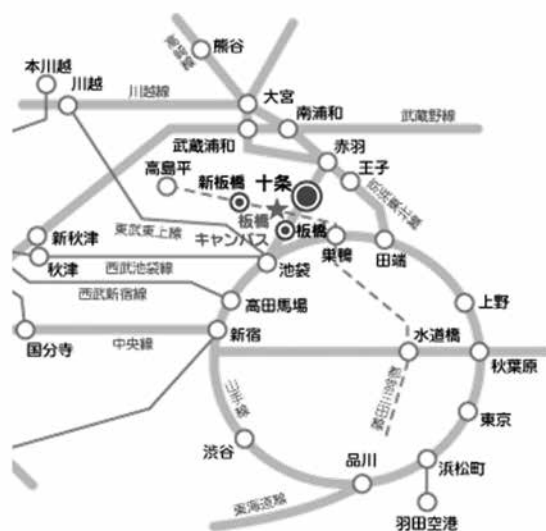
十条門正面16号館一带

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

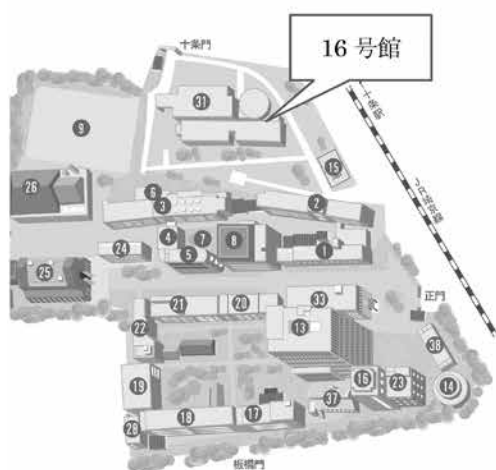
□アクセス：JR埼京線十条駅下車徒歩5分

JR埼京線板橋駅下車徒歩17分

都営三田線新板橋駅下車徒歩15分



会場案内図



□参加資格：どなたでも当日参加可能です。

□参加費：500円（概要集代）お誘い合わせの上ご参加ください。

□昼食：当日大学内では昼食を購入できません。駅付近のお店をご利用ください。

□お問い合わせ：研究局長：結城孝雄 東京家政大学

Tel&Fax：03-3961-5594（研究室直通）

takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp（随時アクセス可能）

第 52 回美術教育研究発表会 2018 2018(平成 30 年)10 月 14 日(日)

会場:東京家政大学 16 号館

主催 公益社団法人 日本美術教育連合 後援 文部科学省

9:30	受付開始				
9:45	開会式 会場A 161A教室 発表者控え室 162A 2F				
9:55	会場A161A (理論等)	会場B161B (実践小)	会場C161C(実践中高大)	会場D162B(ICT/幼)	会場E 162C(海外/特支)
10:00	A-1 日本美術教育連合「山形文庫」の全体像とその可能性 筑波大学 箕輪 佳奈恵/直江 俊雄	B-1 小学校における共同制作版 画の意義と可能性について — 私の実践を通して — 日本版画院委員 中條 秀憲	C-1	D-1 プログラミングを取り入れた インタラクティブな表現 題材の実践 東京福祉大学短期大学部 井上 昌樹	E-1 City and Country School(N.Y.)における統合 的な授業づくりと教師教育 ～「美術と他の学問領域」 をめぐるパートナーシップ の考察～ 東京学芸大学院連合 伊東 一登
10:25					
10:30	A-2 フロア理論を基にした学習 環境デザインの研究 東京学芸大学附属小金井 小学校 守屋 建	B-2 図画工作における鑑賞と 表現を関連させた指導 —ゴッホ『星月夜』の鑑賞 から学び表現させた実践 報告— 東京都千代田区立番町 小学校 長田 千春	C-2 産官学連携による真岡の まちづくり —廃材を活用したアートプ ロジェクトの事例から— 國學院大學栃木短期大学 名取 初穂	D-2 モバイルムービーの実践 と高校生の学習行動の関 係～「学校 CM プロジェク ト」の報告より～ 神奈川県立相模向陽館 高等学校 片桐 彩	E-2 美術鑑賞における省察的 学習を促す方法に関する 考察 筑波大大学院 劉 桂柱
10:55					
11:15	休憩 (20 分)				
11:15	A-3 戦後の美術教科教科書にお ける掲載作品の研究(19) —20 世紀後半以降の日本 美術教科教科書の巻頭文と 掲載作品の検討— 元 宇都宮大学 山口 喜雄	B-3 「小学校英語を図画工作の 中で使って学ぶ」実践報告 東京学芸大学 大学院 新川 美湖	C-3 芸術を主体とした学外活 動が学力に及ぼす影響 について ～アートパークの活動から～ 聖徳大学短期大学部 北沢 昌代	D-3 幼児教育における「造形 遊び」の課題を考察する: 環境構成の視点から —アートプロジェクト(大成 ゼミ)の実践を通して 聖徳大学大学院 佐藤 牧子	E-3 シンボル・システムとしての 描画:自閉スペクトラム 症児者との思考の共有に 向けて 東京学芸大学院連合 細野 泰久
11:45					
11:50	A-4 美術科教育における表 音・表意文字の意味と色 彩感情の関係 中村学園大学/佐賀市立 小中一貫校富士枝小学部 姉川 正紀、姉川 明子	B-4 児童の美的経験からはじ める図画工作授業実践の 研究 東京学芸大学附属世田谷 小学校 大櫃 重剛	C-4 保育者志望生を対象とす る木工制作体験の教育的 意義 —授業観察と省察的ワー クシートに基づいて— 東洋英和女学院大学 三上 慧	D-4 触覚と手指の動きと視覚的 触覚に関する一考察—泥 団子作りから始まること— 群馬大学大学院 多胡 宏	E-4 日本の国際協力における 基礎教育分野の造形美術 教育 —質的分析による技術移 転に関する地域比較— 東京学芸大学附属竹早 中学校 山田 猛
12:15					
12:20	論文投稿者説明会 12:20—12:35		昼食(12:20—13:40)		
13:40					
13:40	A-5 教科横断的な視点に基づく 「思考スキル」と美術科教育 東京家政大学 畑山 未央	B-5 子供達が図画工作科の授 業をどのように経験したの かに関する教師の理解 神戸市立義務教育学校港 島学園小学部 小田 恵子	C-5 教員養成課程における深 い学びを目指した対話型 アート活動に関する研究 目白大学 佐藤 仁美	D-5 VR、AR、ドローン等を活用 した造形教育の実践—テ キストマイニングを活用し た分析から教育的意義を 考える— 宮城県登米市立北方 小学校 宮崎 敏明	E-5 秋田&フィンランドの「視 覚美術・工芸」教育交流展 の実践研究報告(2)—高等 学校相互交流展開催への プロセス— 秋田公立美術大学/秋田 県立西目高等学校 尾澤 勇/黒木 健
14:05					
14:10	A-6 駅前広場の裸像は芸術 か?—前橋駅前の「建設 」<<希望>>像の考察から 群馬大学 大学院 梶原 千恵	B-6 図画工作における版画の 表現についての考察—版 画の偶然性に着目して— 八王子市立宇津木台小学校 戸室 鉄平	C-6 身近な事物をとらえ直すた めのプログラムの研究 —アートゲームの実践を通 して— 東洋大学 北澤 俊之	D-6 アナログとデジタルを行き 来して表現する特別支援 学校における美術の授業 実践 沖縄県立島尻特別支援 学校 小橋川 啓	E-6 行事に向けた学習におけ る制作活動—主体的に取 り組む姿を目指して— 宇都宮大学教育学部附属 特別支援学校 坂本 綾子
14:35					
14:40	A-7 図画工作科における創造 活動を通して「造形的な視 点」の研究Ⅲ—感受と意 味の理解について— 東京学芸大学 西村 德行	B-7 児童の主体性を引き出す 図画工作授業実践の研究 (3) —低学年の鑑賞活動につ いて— 沖縄県トリック小学校 矢澤 聡	C-7 「朝鑑賞」の取り組みと成 果報告Ⅱ 武蔵野美術大学 三澤 一実	D-7 幼児の造形表現と遊び行 為におけるイリクス(目 眩)の追求 鶴見大学短期大学部 鮫島 良一/海野 阿育	E-7 美術実践に基づく美術鑑 賞教育:韓国伝統美術の 教材化に向けての試み 韓国春川教育大学校 柳 芝英
15:05					
15:25	休憩 (20 分)				
15:25	A-8 中大(院)連携プログラム I「Roots 私の美術展」 熊本大学 赤木 恭子	B-8 テキストから豊かに紡ぎだ される視覚イメージの考察 Ⅱ:国語教科書の詩「銀 河」が描く言葉と絵の関係 東京学芸大学院連合 松井 素子	C-8 アーティスト・イン・スク ール(AIS)の可能性～教員 ×アーティスト×生徒の可 能性とは、様々な実践と今 後の展望～ 群馬大学大学院 住中 浩史	D-8 知的障害児における ICT を活用した造形授業の実 践Ⅰ—ミライの体育館?に よる色彩学習を事例に— 筑波大学附属大塚特別 支援学校 森 芸恵	
15:50					
15:55	A-9 学習指導要領図画工作・ 美術における「発想・構 想」概念の展開 東京学芸大学 山田 一美	B-9 一人一人の「きめる・きめ 直す」を生かす図工授業 のプロセスデザイン ～主体的・対話的で深い 学びの図画工作科授業改 善の一具体として— 筑波大学附属小学校 笠 雷太	C-9 中学校美術科と国語科の 教科融合型学習の研究 (2)～津久見色辞典とア ートと言葉新聞の制作～ 大分大学/大分県教育庁 津久見市立第一中学 藤井 康子/木村 典之/ 松永 芳恵	D-9 子どもの美的体験におけ る比喩的イメージの活用と 課題Ⅶ—イメージ・スキ ーマの役割と機能— 東京家政学院大学 立川 泰史	
16:20					
16:25	閉会式 会場A 161A教室 ～16:40				
16:45	懇親会 ルーチェ 16 号館 1F 一般:2500 円 院生・学生 2000 円 お酒寄付歓迎				

第52号 日本美術教育研究論集 2019

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

□投稿ならびに 掲載の条件：

第52回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『日本美術教育研究論集52』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限りします。

- (1) 投稿原稿の題目ならびに内容が、研究発表会における発表内容と同じであること。
- (2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること。
- (3) 投稿原稿の内容が、投稿された各群の内容として適合していること。
Ⅰ群（理論・実践研究論文）…理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む論文。
Ⅱ群（実践研究報告等）…さまざまな教育現場におけるすぐれた実践を報告するもの。
Ⅲ群（研究ノート）…将来の研究につながる問題の提起ならびに先行研究や事例の紹介。
- (4) 投稿原稿の書式、分量等が守られていること。
- (5) 掲載料を期日（2018年11月7日）までに納入していること。
- (6) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- (7) 以上の条件を基に研究論集編集委員会における査読を経て、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。

□論文査読：

Ⅰ群（理論・実践研究論文）・Ⅱ群（実践研究報告等）・Ⅲ群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。

□原稿書式：

Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（Ⅰ群のみ）を含め、下記の文字数を守って下さい。

1頁分は、A4横組 2段 23字×44行×2段＝2024字です。

題目（副題）、所属、氏名は、第1頁の1行目から2段取りで記載し、本文は10行目から書き始めます。なお、題目の英語表記ならびに所属、氏名のローマ字表記もこれに含めます。共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。

大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。

□掲載料：

Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群ともに掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）15,000円、院生・学生8,000円です。

8頁（Ⅲ群のみ6頁も可）を原則とし2頁増ごとに6,000円を加算し（奇数頁の場合も余白頁を含めて2頁増として計算）、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。

頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。

カラーページは1頁につき12,500円を加算します。

抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。（抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。）

掲載料は以下の口座に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を投稿論文に同封して下さい。

口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込です。

加入者名：公益社団法人日本美術教育連合

ご依頼人：(〒) おところ・おなまえ・電話番号・所属

通信欄：例 掲載料15,000円（一般、8頁）+増加分6,000円（2頁増の場合）＝21,000円（計10頁）

抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。

※査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内5,000円（院生・学生3,000円）を引いた金額が返金となります。

〈投稿原稿〉11/ 7（水）必着

□投稿〆切：

2018（平成30）年11月7日（水）必着。Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群とも、

①原稿（正1部と副3部、計4部）、②投稿エントリーシート、③送金証明書（エントリーシートに貼付）を提出して下さい。

投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。

ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。

なお、発行日は2019（平成31）年3月31日を予定しています。

□送付先：

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

□詳細連絡：

研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。

□問合先：

研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111（代）ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座」について

(第二次案内)

事業局担当理事 奥村高明

「日本美術教育連合」は内閣府の承認を得た造形・美術教育にかかわる唯一の公益社団法人です。公益事業として、毎年連続講座を実施し、子どもと造形表現をめぐって理解を深め、講義と演習を通して教育実践力を高める講座を行っています。第4期は、美術及び美術教育について幅広い視点からとらえ直すために、「越境し、拡張する美術鑑賞」をテーマに講座の内容を企画しました。2/3以上を受講し、規定を満たした参加者には、公益社団法人 日本美術教育連合からの「認定書」を授与します。どうぞ、奮ってご参加ください。

1. 対象：幼保・小・中・高・大学教員、学生、院生、美術館関係者、画塾経営者、連合会員
2. 第4期テーマ：「美術教育ワークショップ－越境し、拡張する美術鑑賞－」
3. 日程及び内容等：1講座2コマ（90分×2）で構成し、全体で4講座（合計8コマ）を開催します。
 - (1) 第1回講座 「アートと社会のこれからの関係を考える」
 - ① 日時：2018年12月9日（日）講演13：00～14：30 ワークショップ14：40～16：10
 - ② 場所：アマナ（天王洲アイル本社1F研修室）東京都品川区東品川2丁目2-43
※会場の関係で定員20名
 - ③ 講師：上坂真人先生（アマナ執行役員）
 - ④ 内容：上坂先生は、広告写真等の制作、ストックフォトの企画販売など世界的な企業アマナの執行役員として、企業とアートを結び付けるだけでなく、アートを通して地域文化の創造に取り組んでいます。美術作品の飾られているアマナ本社の研修室を使ってビジネスと美術に関する講演とワークショップを行います。
 - (2) 第2回講座 「社会に開かれる芸術」
 - ① 日時：2019年1月13日（日）
 - ② 場所：武蔵野美術大学三鷹サテライト（予定）
 - ③ 講師：杉浦幸子先生（武蔵野美術大学）
 - (3) 第3回講座 「ポストモダン以降の美術制作と鑑賞－【風景芸術】を巡って」
 - ① 日時：2019年2月3日（日）午後
 - ② 場所：聖心女子大学（予定）
 - ③ 講師：田窪恭治先生（美術家）
 - ④ 講師の田窪恭治先生は、サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂の再生プロジェクト（林檎の礼拝堂）によって、フランス政府より芸術文化勲章（オフィシエ）を受賞された日本を代表する美術家です。近代から現代へ至る時間帯の中で、日常性を基軸とした美術作品／行為が拡張しつつありますが、今回の講座ではキーワード【風景芸術】を軸に、講義とワークショップによって「深い学び」体験を共有します。
 - (4) 第4回講座 「生産ラインから発想を広げる鑑賞」
 - ① 日時：2019年3月予定
 - ② 場所：未定
 - ③ 鑑賞という概念を広げれば、人は常に鑑賞しているといえます。工場（工房）という空間も、鑑賞対象の一つ現場です。現在、生産ラインの現場から発想を広げる鑑賞講座を企画中です。
4. 参加方法等
 - (1) 近日中に日本美術教育連合HPにおいて、「申し込み方法」と「未定の内容・場所のお知らせ（随時更新）」を掲載します。『InSEA－公益社団法人日本美術教育連合』で検索してください。
5. 参加費
 - (1) 1回の講座あたり4,000円（日本美術教育連合会員・学生・院生は、2,000円）
6. ご不明な点等は 事業局 日本体育大学 奥村高明（okumura@nittai.ac.jp）まで

InSEA (International Society for Education through Art 国際美術教育学会) ヨーロッパ地区大会報告

国際局局員 (InSEAアジア評議員) 佐藤 真帆

2018年6月18日から21日、InSEA 国際美術教育学会のヨーロッパ地域大会が、フィンランドのアールト大学、オタニエミキャンパス (Aalto University Otaniemi Campus) で開かれました。アジアからの参加者が少ないなか、日本からは口頭発表、作品展示、ワークショップ、ポスター発表と様々なスタイルで研究成果の発表がありました。この学会の特徴の1つは、発表スタイルの多様性で、口頭発表も共同研究者を募るようなかたちのもなどありました。また、ヨーロッパの大会である独自性も見られました。ヨーロッパの研究者から構成される、European Network for Visual Literacyが、視覚リテラシーに関する共同研究を行っており、テーマごとに連続した口頭発表とワークショップを実施していました。ヨーロッパ地域ではInSEAの会員数も増加傾向であり、活発な活動を独自で行っており、今後のアジア地域の美術教育を盛り上げる活動の参考になるのではないのでしょうか。学会中には美術館での鑑賞などでフィンランドの美術文化に触れながら、参加者自身が国際交流を通して文化の理解を深める機会がありました。会期中に評議委員会も開かれ、言語や文化が異なる国からなるアジアでいかに連携して美術教育を盛り上げていくかについて、他の地域から「直接会うこと (Physical contact)」とアドバイスがありました。アジアの中で美術教育のためにどのようなことができるのか、お互いの文化を尊重しながら独自の方法を模索していくこともまた創造的で、美術的な活動であることを気付かされた学会でした。

InSEAからのお知らせ: InSEAはマニフェストを作成しました。日本美術教育連合の会員の皆様にも、是非一度、ご拝読、活用いただければと思います。



図1：学会ポスター



図2：アールト大学を象徴する建築

InSEAマニフェスト (InSEA宣言) URL

<http://www.insea.org/InSEA-Manifesto>



公益社団法人 日本美術教育連合主催 造形・美術教育フォーラムのお知らせ

(一般参加可 参加費無料!)

美術教育連携交流担当

山口 喜雄 長田 謙一 橋本 光明

平成28(2016)年12月に中教審は「学習指導要領の改善及び必要な方策」の前提として、「近年顕著となってきたのは、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきていることである。とりわけ最近では、第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている」と子供たちをとりまく社会状況の未来をとらえています。

平成29(2017)年7月に『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説美術編』が示され、その冒頭に、「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」と明記しています。

そして、平成33(2021)年度に新学習指導要領全面実施が予定されています。それらをふまえて、これまでの図画工作・美術の授業は何をどのように改善させることが求められているかを学び、これからの幼稚園から高等学校までを通した美術教育の展望を明らかにします。

□テーマ 『新学習指導要領施行と幼稚園から高等学校までを通した美術教育の展望』

□日時 平成30(2018)年12月23日(日) 14:00開会予定

□場所 首都大学東京秋葉原サテライト※交渉中【9月末<https://insea-in-japan.or.jp/>に公示】

東京都千代田区外神田1-18-13秋葉原ダイビル12階(秋葉原駅徒歩2分)

アクセス https://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html

【備考】ダイビル内は「案内表示」ができません。12階にお越しください。

□講師 東良雅人先生(文部科学省初等中等教育局視学官)

事務局便り

■会員の異動について（敬称略）

〈入会者〉井上昌樹・奥村祐喜・小橋川 啓・佐藤牧子・住中浩史・多胡 宏・丸 雄治

〈退会者〉福本謹一

■局員の委嘱について

平成30年8月26日に開催いたしました第4回理事会において、下記の皆さんに局員としてご就任頂くことになりましたので、ご報告申し上げます。

研究局局員 赤木 恭子 氏

研究局局員 佐藤 仁美 氏

国際局局員 佐藤 真帆 氏

任期：平成30年8月26日～平成32（2020）年5月第10回定時総会

■「第52回日本美術教育研究発表会2018」が開催されます！

来る10月14日（日）に、第52回日本美術教育研究発表会2018（文部科学省後援）が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。会員の皆様からは、多数のお申し込みをいただきありがとうございました。昨年度同様、本年度も42件と多数の研究発表が予定されています。広く日常的な実践の中での児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・科学的な精査から組み立てられた研究、世界の美術教育の状況まで、多彩な発表が行われることが期待されます。

なお、参加費として概要集代500円を戴いております。運営上の経費としてご理解下さい。また、同会場での懇親会にも奮ってご参加ください。楽しくリーズナブルに参加者同志の交流が図れる絶好の機会です。

■会費納入のお願い

平成30年度(2018年度) 会費 6,000円 を納入してください。

※振り込み先：（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めの納入をお願い申し上げます。

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます。その際、お名前や会費年度等をご記入いただきますようお願いいたします。

■お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局長 北澤 俊之

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科 第8研究室

TEL&FAX：03-3945-8568（研究室直通）

E-mail：kitazawa@toyo.jp